イチオシ！この山 東北信支部

里山の代表格 虫倉山（一三七八m）

東北信支部のエリアには槍穂高を代表とするアルプスのような高峰はない。その代わり、ここで紹介する虫倉山を始め、登って良し眺めてまた良い里山が数多く存在する。そして、長野市の故清水栄一氏による信州百名山にも幾つか選定されており、虫倉山もその一座である。標高こそ一五〇〇メートルに満たないが、妙高戸隠山塊の南端、後立山連峰の東側に位置し、山頂からの眺望は誠に素晴らしい。例年山桜が咲き、アズマイチゲやスミレサイシン、イカリソウが登山道脇を飾る五月三日に開山祭が行われる。連休中のイベントでもあることから、地元中条村はもとより県内外から大勢の登山者が集まり、多い時には三〇〇人を超える賑わいを見せる。また、筆者が中条山岳会入会のきっかけともなった元旦登山も、二〇〇一年以来今年で七年続けての参加となり、初日の出山行が一年のスタートとなっている。幸い今年は七年目にして初めて快晴に恵まれ、浅間山肩から昇る初日の出を拝めた。

虫倉神社より

先日、昨年の支部主管行事夏山登山教室に参加された茅野在住Kさんから、冬の虫倉へ登りたいのでお奨めコースはとの問い合わせを頂いた。週末の土曜なら空いていますのでご案内しましょうかと返信したところ、早速ご一緒願いたいと連絡があり、支部行事が取り持つ縁での山行が実現した。今回はこのKさんをご案内した山行記を兼ねてイチオシこの山を紹介したい。

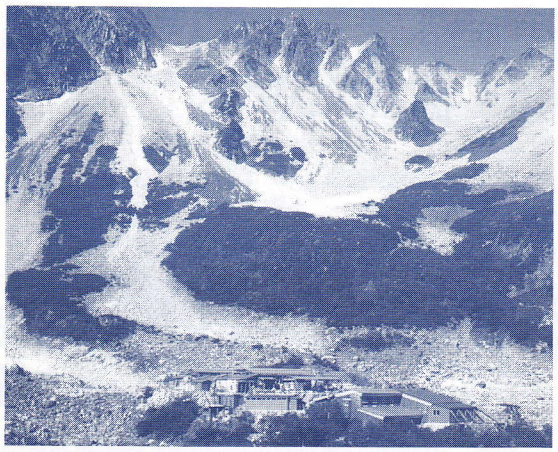
Kさんは冬山経験もおありとの事だったので、登りを急峻な「さるすべりコース」、下山は一般的な「不動滝コース」と決め、下山口に車を一台デポして伊折虫倉神社からスタート。ご多分に漏れず今冬の少雪は虫倉にも当てはまり、南面尾根直登ルートの核心部鎖場は殆ど雪も消え、今日がスノーシューデビューというKさんにとって履く機会が少なかったのは心残りだったでしょう。それでも神社から奥ノ院までの杉やミズナラの疎林で履き心地を確認され、目的の一つは達成された様子。奥ノ院脇には最初の鎖場があり、凍った雪が付き、ピッケルで足場を切り、鎖を頼りに攀じ登る。そこをクリアして暫くは平坦な尾根歩きとなり、残雪に心地よいステップを刻む。頂上への最後の詰めは正に猿も滑り落ちる如き急坂が一五〇メートル程続き、鎖と木の根を手掛かりに腕力で登り切る感。このルートを下山に使う場合は、高度感たっぷりだが、決して慌てず着実にホールドとスタンスを取り降りたい。また、冬期の下降は避けたい。積雪期の虫倉山は訪れる人も少なく、静かな山頂は我々だけの貸し切り状態。たまたま翌日が筆者の誕生日。同行の山岳会仲間ヒロちゃんからはビールや純米吟醸が振る舞われ、焼肉を肴に仕上げの煮込みうどんまで、何と二時間以上も山頂で過ごす。黒姫妙高高妻から始まり、後立山、槍穂高、Kさん地元の八ケ岳、浅間・四阿山、その下を流れる千曲川と善光寺平。三六〇度の展望もこの上なく美味しいご馳走だ。

漸く下山に移り、先ず西へ向かい稜線を下る。ここは樹林帯でもあり積雪が三〇センチ程あり、不動滝コースをピストンしたと思われる単独者のトレールが残っていた。十五分程で北ア絶好の展望地に建つあづま屋到着。更に日本記コース、天神城コースをそれぞれ右に分け、雑木林をジグザグにひたすら下ると金倉坂。不動滝へ繋がる沢を徒渉し、杉林を僅かに下ると登山口の林道到着。因みに、林道を左に行くとトイレの建つ広場、右に行けば直ぐに不動滝とデポ車のある駐車スペース。

登り二時間、下り一時間半、山頂滞在二時間、冬山とは名ばかりの長閑な山行であった。

写真は「虫倉神社から眺める村落と後立山」で、日本の原風景を見るようだ。

（中条山岳会　小林貞幸）



穂高氷河圏谷“涸沢ヒュッテ”

現地TEL　090－9002－2534
FAX　090－8683－2865

涸沢ヒュッテ 東京事務所（有楽町交通会館Ｂ－１）
03－3211－1023（10:00～18:00）

春～残雪きらめく白銀の別世界
夏～お花畑と穂高登山の憧れの基地
秋～涸沢の紅葉を見ずして穂高を語ることなかれ